

# 防災官の声

## 退職自衛官採用のメリット

自衛隊在任間に培われた、災害対処の能力(※)は、地方公共団体の危機管理対処能力を向上させます。

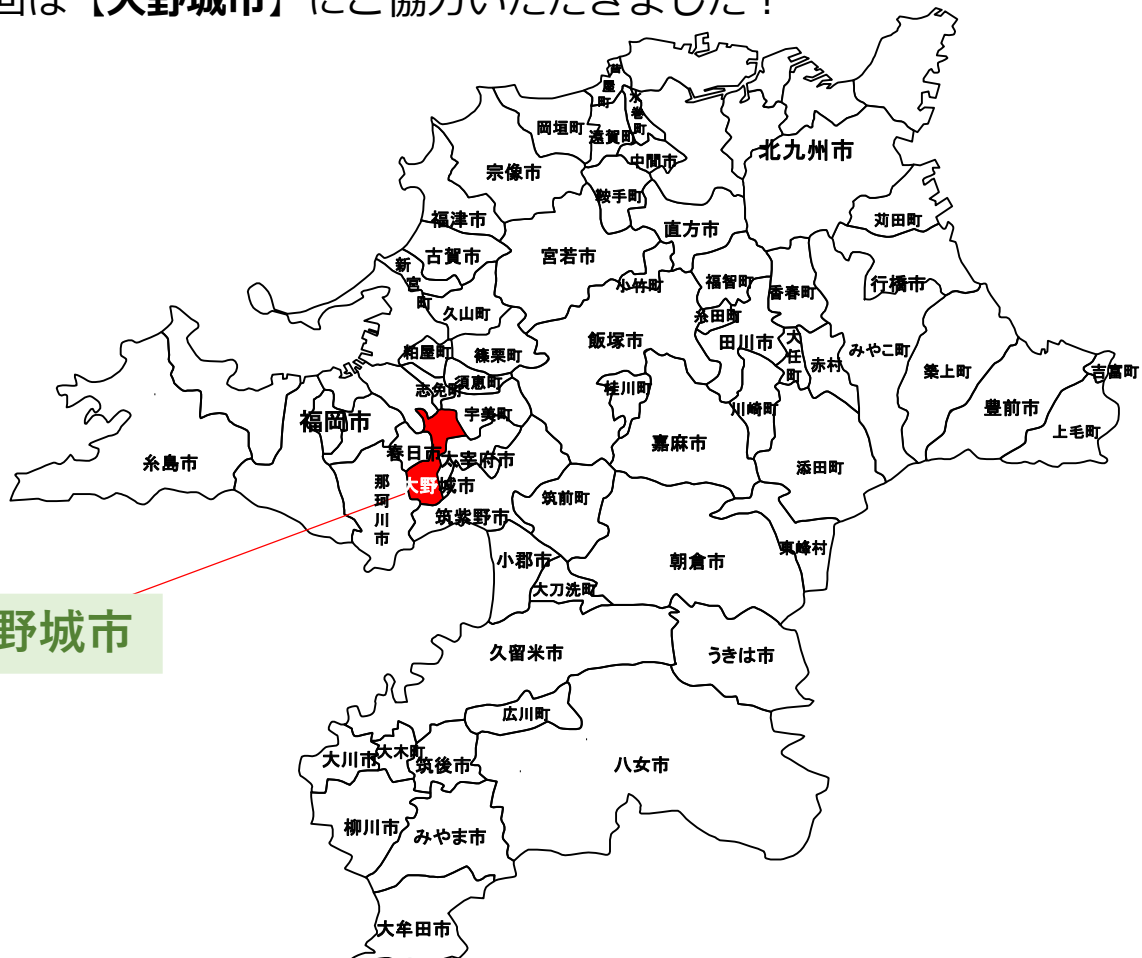
また、防災行政に関する首長等への的確な助言や自衛隊等関係機関とのネットワーク構築が期待できます。

### ※主な能力として

- ・ 指揮官が様々な状況に対し、的確な状況判断ができるよう補佐（情報収集、分析等）
- ・ 自衛隊の運用に関する知識と経験
- ・ 訓練指導能力及び調整能力などです。

## 福岡県内の採用状況

福岡県を含む61市町村ある中の21の自治体で採用。（掲載日現在）  
今回は【大野城市】にご協力いただきました！



大野城市

## 自治体概要等

大野城市

- ・人口 103,048人 (R5.12.31現在)
- ・面積 26.89km<sup>2</sup>

大野城市役所

- ・職員数 458人 (会計年度任用職員を除く)

## 退職自衛官の採用について

大野城市の名称は、天智4年(665年)に築いたわが国最古の朝鮮式山城「大野城」に由来します。福岡市の南に位置し、古くから博多と大宰府を結ぶ交通の要所として繁栄しました。現在も国道3号や九州自動車道、福岡都市高速道路、JRと西鉄が通り、福岡空港にも近い、交通の便に恵まれた地域で、人口増加が続いています。

過去には御笠川の溢水や市内南部での土砂災害にも見舞われましたが、市の中心部には警固断層帯が位置しており、大地震も懸念される場所です。そのような状況でありましたので、東日本大震災以降、市は防災対策を重点課題の一つとして位置づけ、平成24年度から退官自衛官を防災危機管理専門官として採用し、市の防災対策の一翼を担っていただいております。(現在2名)

## 防災官の仕事内容について

(災害時) 災害対策本部(警戒本部)に関する業務

- ・災害対策本部事務局の運営、防災関係機関(特に自衛隊)との連絡調整

(平常時) 防災に関する業務全般

- ・防災に関する普及啓発、自主防災組織の育成、市民に対する出前講座
- ・防災訓練の企画・運営
- ・防災関係機関との連絡調整

## 退職自衛官の働きぶり

自衛隊在職中に培った専門的知識、能力と経験を活かし、大規模災害に対応できる実践に則した防災訓練等の企画・運営に携わっていただいております。特に自主防災組織の育成については力を入れていただいております。市民に対する出前講座も大変好評で、多くの申し込みをいただいている状況です。

また、災害発生時のみならず、平時から自衛隊等の関係機関との連絡調整を担っていただいております。関係機関とのスムーズな連携に繋がっています。

## 退職自衛官の声

私たちは、防災・危機管理専門官として平成29年4月と9月にそれぞれ採用されました。

大野城市の地域の特性として、市の中央に警固断層と御笠川があることから、防災意識が高く市内28区全てに自主防災組織があり、区長を中心に毎年、防災訓練や研修を実施しています。

また、令和元年度からは、11月の最終土曜日を「大野城市民総ぐるみ防災訓練」として大野城市内の全ての区、コミュニティセンター、小中学校や市に関連する防災関係機関が一斉に訓練を実施しています。

更に、令和4年度から大野城市防災士連絡協議会が発足、防災士の資格を取得された方々が地域ごとに防災士連絡部会に所属して活動しています。

このように防災活動が活発な大野城市で私たちは、区、学校、各種団体への防災講話や防災訓練に関する助成金の処理、市の備蓄品の管理、自衛隊各種行事等への対応や、出水時期に災害警戒本部、災害対策本部が設置された際には、災害関連情報の収集や関係機関（警察・自衛隊）との連絡調整等の業務を実施しています。

先に述べたように大野城市は防災意識が高いことから防災講話など機会あるごとに市民からいろいろな質問や相談を多く受けます。

それらに関する内容や回答などの情報を二人で共有しながら市民の防災力向上の一助となるべく業務を進めています。

自衛隊とは違う仕事や環境に慣れるまで戸惑うこともありましたが、現在は職員の方々のご指導と二人で協力しながら、防災・危機管理専門官として日々、職務に精励しています。



防災・危機管理専門官  
高橋 博士氏  
最終部隊：情報保全隊

防災・危機管理専門官  
川野 浩二氏  
最終部隊：情報本部